

問題の多い旧基幹システムを全面刷新へ

直径2mm以下の精密ねじのメーカーであるユニオン精密は、2002年にiSeriesを初めて導入し、基幹情報システムのリプレースを成功させた。このリプレースは、iSeriesの経験が皆無なうえに、短期の移行が要請されるという厳しい条件下で進められたが、パッケージの導入やそのカスタマイズを最小限に抑える卓抜なプロジェクトマネジメントによって、スムーズな移行を果たした。本レポートでは、同社の取り組み内容をレポートしたい。

精密ねじメーカーという一般には馴

染みが薄い。しかし、携帯電話やデジタルカメラ、HDDなどに使われる小型ねじのメーカーといえば身近だろう。おそらく、読者が所有している携帯電話やデジタルカメラの中にも、ユニオン精密製のねじが多数使われているはずである。この精密ねじの分野は、携帯電話などへの適用を見てもうかがわれるように、近年、大きな活況を呈している。そして、製品メーカーからは常に最新の要求が出されているのが実情だ。

ユニオン精密では従来、基幹システムをPCサーバーとねじ業界用パッケージを使って運用してきた。しかし、そのシステムは、「最近の精密ねじ市場の実情に機能面で合わない部分が多く、

ビジネス面で問題が生じ始めていた」(石渡和仁 総務部係長)という。具体的には、入力・転記・手書き作業が多かったため注文・受入作業に手間がかかり、納期回答にもかなりの時間を要していた。また、生産予定や実績の把握が困難であったため生産計画にも手間取るなどの問題が生じていた。そこへ、従来のシステムのリニアアップも間近に迫っていたため、システムの全面的刷新に踏み切ったものだ。

iSeriesと生産系パッケージを採用

数カ月の検討の末、同社が選択したのは、iSeriesと業務パッケージの

株式会社 ユニオン精密

COMPANY PROFILE

- 設立: 1972年
- 本社: 神奈川県愛甲郡
- 資本金: 7500万円
- 従業員数: 140名
- 業務内容: 電子機器用ねじ、電子機器用部品、精密機器用十字穴付き小ねじ、コネクタピンなどの開発・製造
- http://www.union-s.co.jp/

iSeries 未経験ながら基幹システムの全面更新を実現

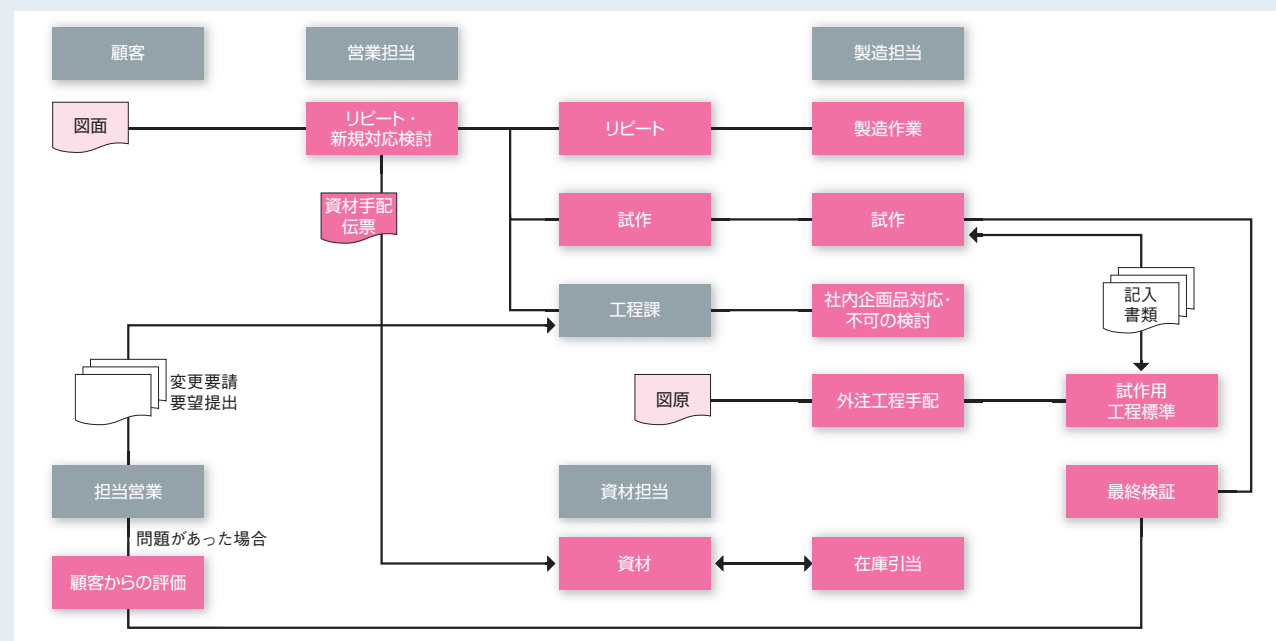
パッケージ導入と最小限のカスタマイズにより短期移行

石渡和仁 氏
総務部係長



Point

- 最新の業務事情にキャッチアップするため基幹システムをリプレース
- iSeries 経験が皆無で、短期移行の要請など厳しい条件下での移行を実施
- iSeries Site 生産管理システムと New WorkFriend-FX を採用
- スピーディな納期回答と正確な商談遂行を実現



図表 生産管理システムの概要

「iSeries Site 生産管理システム」、そして日本ビジネスコンピューター (JBCC) のBIツール「New WorkFriend-FX」であった。石渡氏は、「iSeries Site 生産管理システムは、生産計画から資材手配、在庫管理、進捗管理などまで、当社が生産管理において必要とする機能をすべて対応できる点も高く評価しました」と採用の理由を振り返る。

ただし、同社が選択したのは、「カスタマイズを極力行わず、パッケージをほぼ基本仕様のまま利用する」(石渡氏)という方法だった。この理由は、iSeriesの利用が初めてであるうえに、短期の移行とエンドユーザーコンピューティング部分の拡張を予定していたからである。手間と時間のかかる基幹業務システムのカスタマイズは先送りにしたというわけだ。

BIツール「New WorkFriend-FX」は、エンドユーザーコンピューティングを実現するツールとして採用した。従来のシステムでは石渡氏が、ユーザーの求めに応じて帳票を作成していたが、依頼件数が増加し、かつスピードアップ

を求められるようになったため、システムの刷新に合わせて導入した。New WorkFriend-FXを使うことによって、ユーザーは使い慣れたExcelやロータスノート上にDB/400のデータを直接展開し、分析・集計することが可能だ。

導入スケジュールは、2002年4月にiSeriesを設置し、約1年をかけてiSeries Site 生産管理システムとNew WorkFriend-FXの導入を行い、2003年5月から従来システムと併用でiSeriesの稼働を開始し、同年7月から単独の運用に入った。そして、このiSeriesシステムの安定稼働を確認した段階で(2004年1月)、バーコードシステムを追加し利用を開始した。

従来、棚卸しは人海戦術方式で10~15人が土曜・日曜の休日を返上して行っていたが、在庫製品にバーコードを振ったことにより、「休日出勤が不要になり、スピードアップと正確さが向上した」(石渡氏)という。

今回のiSeriesシステム導入による基幹業務システムの刷新によって、次のような効果が上がったと石渡氏は総

括する。

スピーディな納期回答とビジネス機会の増大

「何よりも、納期回答を即座に行えるようになったため、お客様に対するサービスが向上しました。このことは、競争の激しい市場においてはビジネスの機会損失を提言することを意味すると考えています。また、基幹システム上のデータを簡単に参照し、加工・利用できる環境を整えたことから、正確なデータや情報に基づく業務の遂行が可能になりました。その意味で、今回のシステム導入は、業務のやり方をも大きく変える基盤になったと考えています」 ms

プロジェクトの進捗

2002.4	iSeries 導入
2003.5	新生産系システムを旧システムと並行稼働
2003.7	新生産系システム単独稼働スタート
2004.1	バーコードシステム稼働開始